

第25回 上サロベツ自然再生協議会 再生技術部会 議事概要

日 時：令和元年12月6日(木) 14:00～15:40

場 所：豊富町民センター 2階大ホール

出席者：30名(会員18名、事務局・関係者12名)

傍聴者： 5名

1. 開 会

2. 議 事

1) 農業と湿原の再生に向けた自然再生実施計画書（緩衝帯・沈砂池）に関する報告について

【北海道開発局稚内開発建設部】

①緩衝帯・沈砂池のモニタリングについて

(座 長) 事業実施後（完了後）のモニタリング項目の変更の説明があったが、議題としてあげたのは今回が初めてか。

(開発局) 今回が初めてである。

(会 員) 植生の変化の把握で、写真撮影だけでは変状の把握は難しいのでは。

(開発局) 今までの調査結果を基に、写真撮影をして変状の有無を確認していく。確認方法はもう少し検討する。

(座 長) 変状があってから写真撮影しては遅いが、巡視の中で変状の有無を確認しつつ変状があれば、その他の調査をすると認識している。

(会 員) 指標としている笹だけだと変状がわからないのでは。

(座 長) 概況で写真は撮るが変状があれば調査を行っていくとのこと。今の意見を踏まえて検討してほしい。

(会 員) 沈砂池のモニタリングと機能確認の図（説明資料 P15）で、SS が降雨によって反応しなくなったのはわかるが、それと同時に流量も反応していないのはなぜか。

(開発局) 確認して次回説明する。

(会 員) 今まで使用・整理した資料を会員が見られるよう、ウェブサイトへのアップロードなど整備してほしい。

(開発局) 次年度の完了に向け、データの整理を行う予定であり、地元への引継ぎ方法も検討していきたい。

(座 長) サロベツ地区の完了後は、豊富町又はサロベツ農事連絡会議がモニタリング結果について報告することになると思われるが、モニタリングで変状がない限り、報告はいらないと考えるが会員の意見は如何に。

(会 員) 地元としては、簡易な方法としたい。緩衝帯は手をつけずそのままにしてお

きたい。報告も、変状がなければ良いのではないかとの意見に反対しない。
(座 長) これらの意見を踏まえて、次回の再生技術部会において、実施計画書の変更について最終確認したい。

2) 上サロベツ自然再生実施計画書に関する報告について

【環境省北海道地方環境事務所】

(座 長) 3種類の報告があるとの事なので、一つずつ確認していきたい。

①サロベツ川放水路南側湿原周辺の乾燥化対策について

(会 員) ヤシネットについて、腐朽の年数はどのくらいを見込んでいるのか。

(環境省) 腐朽というのは、植生になじんで分解されるということか？

(会 員) 植生になじむ前に分解する場合もあるし、植生がからんでそのまま一緒に分解される場合もあるが、それを見越してどのくらいの年月を持つことを想定しているのか。

(環境省) ヤシネットの上に泥炭を敷いており、ヤシネットだけで越流対策はしていない。裸地部分の植生については、周辺からの種子の定着を見込んでおり、最終的には泥炭と合わさりネットが見えないようになることを目指して行っていて、周辺植生になじむことを目的としており、具体的に腐朽の年数は設定していない。

(会 員) 緑化の基礎工の目的として使われていると思うので、どれくらい持つかという想定や見通しを立てていないと、数年後何か事が起きた時に困るのではないか。

(環境省) ヤシネットはメーカー側も腐朽年数をきっちり出してはいない。この設置箇所の目的は植生で保護することであり、あくまでも植生が根付くまでの仮止めである。一年経ち、既に植生が再生してきているため、越水が今起こっても容易に浸食されない状況になっている。泥炭とセットで使う事で、より植生を回復しやすい基盤を作り、浸食を防ぐ効果を期待して施工している。

(会 員) 現時点で植生が繁茂しているから大丈夫だろうという理解でいいか。

(環境省) 良い。今後もモニタリングを行い、状況を確認していく。

②サロベツ原生花園園地跡地植生回復試験地の改良について

(座 長) 確認だが、施工はいつを予定しているのか。

(環境省) 次回の技術部会で再度提案し、夏以降で工事したい。

(座 長) 今日の意見を踏まえて、次回の技術部会でもう一度提案頂けるのか。

(環境省) 次回技術部会で最終確認の報告をさせて頂いて、夏以降に工事したい。

(会 員) 植生回復試験地の改良対策案で、泥炭を「ランダムに島状に投入する」について、泥炭の量が十分でないこと以外の意図を教えて欲しい。

(環境省) 現在良好だと考えている別の区画(CD)が開水面もありつつ、植生が回復している状態であることから、面的に均一な植生を保つよりは開放水面が残っ

ていても良いとの考えから、ランダムにした方が植生回復を促せるのではないかと考えた。また、泥炭を均一に撒くよりは施工も経費の面も含め適切と考えている。

- (会 員) クサヨシの問題があり、剥ぎ取った後にまたクサヨシが入ると除去しにくいと思う。半面は水面として残し、半面に施工していくといいのではないかと。除去をしながら自然植生の回復を待つことで良いのではないかと。
- (環境省) 半面を開放水面として残すことでは植生の回復が期待できないが、クサヨシの侵入も想定して対策を行う考え方もあることは承知した。
- (会 員) 冬でも種が広がる植物もあり、5m離れば大丈夫ということもないので、外来種は入ってくることを前提にして、対処しながら回復を図っていく方が2回目の施工としては現実的ではないか。
- (環境省) 採掘の深さによっては植生回復しないことが目に見えていることと、クサヨシの侵入するリスクや入った時の対処方法を比較し、工事は単年度で終えてモニタリングしながら経過を観察したい。
- (座 長) ランダムに入れざるをえないのは、泥炭の量が足りないからだが、十分にあれば全面に入れたいのか。
- (環境省) そこまでこだわりはない。開放水面が一部残ったとしても徐々に植生は回復していくのではないかと考えている。
- (座 長) 泥炭を全体に敷き詰めることにはこだわらないということでもいいか。
- (環境省) 良い。今後、植物の有識者に意見を聞きながら、より効果的でクサヨシが入らない方法と、植生基盤として定着しやすい方法を考えて実施できればと考えている。
- (座 長) 次の施工を行うとまた入ってくる可能性もある。その備えも必要というご意見だった。現に区画の周りの畦部分にもクサヨシが広がっている。その部分は除去するとの事だったが、対処してもまた入った時にどうするかということまで考える必要があるのではないかと。また、開放水面を残すにしても、残し方の検討を行うとのことだった。
- (環境省) 使える泥炭は限られることと、撒き方について今後外来種が入る可能性も想定して施工方法を検討することで良いか。
- (座 長) 泥炭の量のことでは、予算の問題等はあるが、今も泥炭採掘をしている同じサロベツの泥炭を使うということもできるのではないかと。もし全面に行うことがより良ければ、そのようなことも検討の余地があるのではないかと。
- (環境省) 開放水面をまったくなくすというよりは、経過を見ながら植生経過を見守っていきたいと考えている。今のところA区画については、植生基盤がなく回復しないので、手を加えないと戻らないと判断したため、撒き方については工夫したい。

③丸山周辺のササ侵入抑制対策について

- (会 員) 今年度侵入したササの様子を見るのか、剥ぎ取り等の処置をするのか。

- (環境省) 次年度、ササの根茎がどのように湿原側に侵入したのか調査を考えている。
- (座長) ササを確認後は除去するのか。
- (環境省) 特に異論がなければササを除去し、除去した記録を残すことを考えている。
- (会員) ササが 150 cm の溝を越えて伸びるとは現実的ではないと思う。溝を造成した時に深さ 30 cm くらいのところに実はまだ根が残っていたのかもしれないし、掘り方によっては地下茎を溝の中に押し込むようになったのかもしれない等来年調査されたらわかるかと思うので、それを受けて溝の掘り方や手当の仕方を検討するということが良いか。
- (環境省) 今年度降水量が少なかったということが一つ大きな要因かと思うが、これが恒常的になってくると、よりササが侵入することが懸念されるため、溝の深さや幅が適切かどうか皆様に内容を提示しながら、ササ対策のあり方について議論していきたいと考えている。
- (座長) もともとは戦時中に掘った溝にササが侵入していない旧原生花園地区の事例に基づいてこの対策を取ったが、今回 1.5m の一番広い所を越えてササが出てしまった。地下茎を調べるのも大変かと思うが、次の報告を待ちたいと思う。

④その他項目

- (会員) 落合は成果が認められてきていると思うが、緩衝帯に沿って湿原側にある木道の目的も達成されたのではないかと思うが、人工物である木道を何年か後には撤去する予定はあるのか。
- (環境省) 木道は落合沼、水抜き水路での地下水位等のモニタリングのために使っている。実施計画上の最終評価は、落合沼水抜き水路は 2024 年、旧河川後水抜き水路 3 は 2030 年となっており、最終評価後、撤去もありうるかもしれないが、最終評価までは、モニタリングなどを行うため、木道を維持していきたいと考えている。外来種の侵入や湿原植生への影響などに対しては、外来種除去等を行っているので、継続していきたいと考えている。
- (会員) モニタリングは 2030 年まで行うという事か。
- (環境省) 平成 30 年の実施計画書で皆様に承認頂いた。
- (会員) サロベツ農事連絡会議と協力しながら距離を短くしていくなどできるのではないか。緩衝帯に沿って木道がずっと続いているのは、違和感があるので改善の余地があるのではないかと思う。
- (環境省) 自然再生の事業地を見せるために木道を使っている側面もある。
- (座長) 問題提起していただいたので、ここで結論を出すのではなく、木道のあり方について、環境省で考え始めてもらうことでどうか。
- (環境省) 実施計画書の状況を踏まえながら、どうしていくか考えていく必要があると考える。自然再生の目的が達成するのであれば、撤去することもあると思うが、今すぐに撤去することは考えていない。
- (座長) 自然再生協議会は様々な意見交換ができる場なので、継続的に意見交換して

いければと考えている。

3) その他（今後の予定について）

【上サロベツ自然再生協議会運営事務局】

（事務局）来年度の6月を目途に、第26回再生技術部会、第19回自然再生協議会を開催したい。その際、『農業と湿原の再生に向けた自然再生実施計画書』の変更（案）を説明し、承認を得たいと考えている。

《質問・意見なし》

3. 閉 会